

15 トンボとアリを描くーこれが生き物？ー

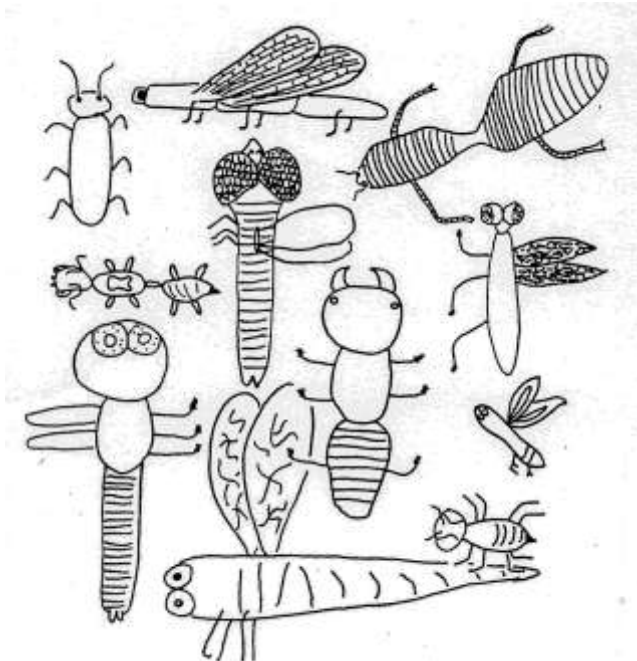
「このごろの子どもは、生き物と触れ合う経験がない。だから、トンボやアリなどの身近な動物の形も描けない」

そんな話を奈良県教育センターの亀井敦宥先生から聞いた。

実態はどうなのだろうか。奈良県中学校理科教育研究会の生駒・郡山ブロック（そのころは、大和郡山市、生駒市、生駒郡内の10校で構成されていた）では、昭和51年度の研究の1つとして調査を行った。この対象としたのは、各校の2年生1クラスの380名である。

「トンボとアリの絵を描いてください」

という質問に対する解答から、身近なこん虫や小動物を知らない子どもたちの現状が明らかになった。次に示したのはその一部である。



この調査が終わったあと、私は「みなしごハッチ」の絵をかかせてみた。ハッチは、当時のテレビ人気アニメマンガの主人公のミツバチである。解答を集めてみて

驚いたのは、こん虫の特徴を極めて正確にとらえていることであった。頭部には大きな目や触覚があり、胸部には3対の足がある。腹部から足が出ているような絵はないのである。

この番組は中学生向けのものではない。弟や妹が見ているのを横目でにらんで、特徴を学んだのであろう。テレビの影響は大きい。自然を正しく認識させるために、こうした映像を活用しようという思いが、後のVTRの活用に結びついていったのである。